

日本海

古恵曇湯

島根 半島

の考古学

バラスト礫を詰めた
船形棺を埋葬する

石主

日本海に大きく張り出した島根半島、そこには各時代を通じてさまざまな文化が栄え、独自の足跡が残る。海上交通が主な手段だった時代、日本海沿岸から宍道湖、中海などの内水面に入ることのできる場所が、各地との交流の拠点となった。最新の調査成果を盛り込み、半島の文化を振り返る。

奥才12号墳埋葬風景

令和7年

10月12日(日) - 令和8年 1月18日(日)

令和8年



縄文土器群 (佐太講武貝塚)

奥才12号墳葬送棺模型

開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日／毎週月曜(月曜が休・祝日の場合は翌火曜)、

12月28日～31日、1月2日～5日、1月1日は新年特別開館

入館料／一般・大学生 300円(250円)、高校生以下無料

※()内は10人以上の団体料金

松江市立鹿島歴史民俗資料館

島根県松江市鹿島町名分1355-4 TEL/FAX: 0852-82-2797

https://www.city.matsue.lg.jp/kanko_bunka_sports/rekishi_bunkazai/shiryokan/9697.html



島根半島の考古学

主な展示品

砂利の海岸（鹿島町御津島寄海岸）

砂利浜の記憶

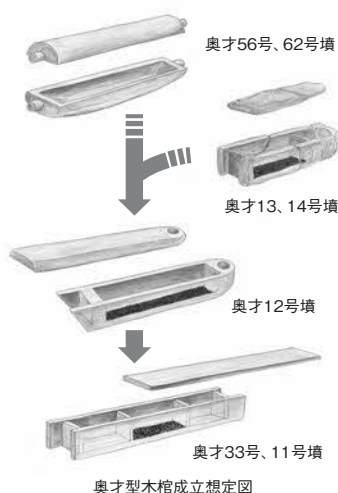
島根半島の日本海岸は、その多くが砂利浜である。今ではコンクリートの浜となっているところが多いが、波にあらわれた丸い小石の浜が、かつての姿であった。

砂利は、船のバラストとして使え、砂利浜は船の曳き上げにも好都合だったと考えられる。日本海に乗り出した古代の海人やその統率者が、慣れ親しんだ砂利を棺の底に敷くという風習が発生するのは必然に思える。

葬送船と奥才型木棺

島根半島中央部に位置する奥才古墳群では、築造が始まった当初は丸太を刳り抜いた木棺で埋葬を行う。前期中葉に、小石を棺の底に敷き詰める葬法が発生する一方、前代の刳り抜き木棺を船の形に整え、その棺底にバラストの礫を詰めた船そのものを埋葬する葬送船ともいべき12号墳が造られる。この葬送船の簡略形として、「奥才型木棺」が成立するプロセスを考えたい。

- 奥才14号墳石棺、12号墳木棺、33号墳木棺 1/3模型



一粒の粳 稲をもたらした人々

初期の弥生農耕は、北部九州から日本海沿いを東に伝わった。海岸砂丘の内側の潟湖周辺が最初の農耕地に選ばれた。海浜砂丘上の最古の弥生土器が見つかった原山遺跡、同じような砂丘上にある古浦砂丘遺跡。内陸に立地した北講武氏元遺跡と堀部第1遺跡では、縄文晩期人とともに開発した様子を垣間見ることができる。

- 原山遺跡（出雲市）、古浦砂丘遺跡、北講武氏元遺跡、堀部第1遺跡土器

海彦・山彦

海は魚介類に恵まれ、山には森がある好適地を選んだ縄文人は、こうした資源の豊富な場所を選択的に生活の場所とした。季節ごとに住居を移しながらの生活も想定されている。

- 前期土器・石器・貝層 佐太講武貝塚
- 中期土器・石器・獣骨 北浦松ノ木遺跡
- 後期土器・石器 夫手遺跡、堀部第1遺跡ほか

彼らは来た

弥生時代後期から古墳時代初頭、出雲地方には多くの人々が訪れていることが、大量な他地域の土器の出土から明らかである。その多くが海上航路を利用しており、日本海に突き出す島根半島の拠点として果たした役割は大きい。

- 近畿地方土器・北陸系土器・九州系土器 南講武草田遺跡
- 吉備地方系土器 山持遺跡ほか
- 朝鮮半島製の瓦質土器、陶質土器 南講武草田遺跡、佐太前遺跡



出土した他地域の土器

メタルカラーの時代

古墳時代に入ると、青銅鏡など、メタルカラーの輝きに当時の人々は魅了された。新しい焼き物の須恵器も金属的な光沢を放つ。横穴墓からも金銀色に輝く大刀が見つかる。古墳時代終末、横穴墓には金属器を模した近畿産の土師器が副葬される例がある。これは出仕や貢物の運搬で上京した横穴被葬者が記念に持ち帰ったものではなかろうか。

- 金銅装圭頭大刀 高田尾横穴墓
- 銅装圭頭大刀 連行遺跡1号横穴

装飾大刀
(左) 高田尾横穴墓 (右) 連行遺跡1号横穴

港のすがた

古恵曇潟に面する稗田遺跡では、低湿地におびた木製品が踏み込まれており、これを低湿地開発のための足掛かりと考えてきたが、木材は、高所から放射状に敷設されており、潟湖に着いた船を水際から引き上げる斜路と考えられる。湿地での船の抵抗を減らすための一種の港湾施設と考えたい。

- 準構造船舶部材 稗田遺跡 弥生時代終末
- 船部材 佐太講武貝塚低湿地部 古墳時代前期

特別展開連講演会

会場／鹿島ふれあい館会議室（松江市鹿島町北講武）

日時／令和7年11月15日（土）13:30～15:00

演題／「潟湖の時代—山陰における弥生・古墳時代の船と津—」
池淵 俊一氏（島根県教育庁文化財課課長）

定員／60名（要申込）

ギャラリートーク

11月1日（土）10:00～10:40、11月15日（土）10:00～10:40、

12月13日（土）10:00～10:40

交通アクセス

バス…JR松江駅より一畑バス「恵曇」行、佐太神社前下車徒歩2分
車…山陰道松江西ランプより30分

お問合せ先

松江市立鹿島歴史民俗資料館

〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分1355-4
TEL/FAX 0852-82-2797